

2022年12月 現在

FUJITSU Software

YPS/COBOL Std V5.1a L20

本商品は、YPS WorkBenchに、YPS仕様書(注)の翻訳機能、デバッグ機能、カバレッジ機能および設計書生成機能を組み合わせた統合開発環境です。

本商品は、プログラミング～デバッグ～保守の開発サイクルを支援します。

これにより、PC、PCサーバおよびGS/Mシリーズ上で動作する業務アプリケーションを効率良く開発することができます。

注:YPS仕様書とは、YPS/COBOL言語で記述されたプログラムを指します。

- ・ スタンドアロン

PRIMERGY / FMV / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Cloud Service S5

- ・ スタンドアロン

Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit) /
Windows Server 2012 R2(64-bit) / Windows Server 2012(64-bit) / Windows Server 2008 R2(64-bit) /
Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows 8.1(64-bit) / Windows 8.1 / Windows 7(64-bit) /
Windows 7

1. YPS/COBOLアプリケーション開発向けの統合商品

YPS/COBOLを利用した業務アプリケーションプログラムを開発する場合に必要な以下の商品をセット化した商品です。

個々に商品を購入する場合に比べて、必要な商品群の手配が容易になると同時に、コストパフォーマンスが向上します。

(1) YPSによるプログラム開発に必要なツールを統合した開発環境の構築

YPS仕様書の作成、構文チェック、翻訳から実行形式ファイルまでの作成、ホスト連携および標準化支援機能を提供します。

- ・ YPS WorkBench機能

(2) YPS仕様書の翻訳、ブラウザ、デバッガおよびカバレッジ ブラウザ

YPS仕様書からCOBOLプログラムの生成、YPS仕様書でのデバッグおよび利用者アプリケーションの実行経路や回数の計測機能を提供します。

- ・ YPS/COBOL機能

(3) YPS設計書生成

YPS仕様書、インクルード仕様書およびCOPY登録集から、モジュール設計書を作成する機能を提供します。

- ・ SIMPLIA PF-EXSPEC(APPLY商品)

構成商品と機能

商品名および機能	版数	主な機能
YPS WorkBench機能	—	表記編集、ホスト連携、オブジェクト管理、保守支援、標準化支援
YPS/COBOL機能	—	コンパイラ、ブラウザ、デバッガ、カバレッジ ブラウザ
SIMPLIA PF-EXSPEC (APPLY商品)	V05 L04	YPS設計書生成

2. YPS WorkBench機能

YPSによるプログラム開発に必要なツールの統合化をWindows上で実現した統合開発環境です。

YPS仕様書の編集からコンパイル、リンク、デバッグおよび保守まで、すべての処理をWindows上で行うことができます。

(1) YPS表記編集機能

論理構造を意識したYPS仕様書の編集が可能です。

また、テキストファイルの編集を行うこともできます。

(2) セクション構造図編集機能

抽象度の高いセクション構造図のビューでYPS仕様書の編集が可能です。

YPS仕様書を解析して構造図を表示したり、構造図を作成してYPS仕様書のスケルトンを生成することができます。

(3) 標準構文ファイル変換機能

YPS表記編集で使用する標準構文を切り替えるユーティリティです。

また、利用者独自の標準構文定義ファイルを作成し、標準構文で使用することができます。

(4) 仕様書関連機能

・仕様書印刷機能により、YPS仕様書を印刷したり、モジュール構成図等のドキュメントを自動生成して印刷します。

・ステップカウント機能によりYPS仕様書の実行ステップ数、コメント、図記号の数などをカウントします。

・YPS仕様書比較機能により、YPS仕様書の世代間の違いを色付けしてわかりやすく表示することができます。

(5) セットアップ機能

YPS WorkBenchの環境をカスタマイズすることができます。

(6) ホスト連携機能

簡単な操作でホストとの連携を行うことができます。

ホストのPS/POやGEMとの転送、変更箇所のみを送信によるGEMへの修正反映が可能です。

(7) オブジェクト管理機能

プロジェクト単位でソースプログラムの構成を管理できるため、アプリケーションを自動的に構築するMAKE機能やプロジェクトのドキュメント印刷などが簡単に行えます。

(8) 保守支援機能

YPS仕様書などの資産から保守資料を出力したり、抽象化構文の修正による影響範囲の検索や一括修正などを行うことができます。

3. YPS/COBOL機能

コンパイラ、ブラウザ、デバッガ およびカバレッジブラウザの4つのコンポーネントから構成されています。各コンポーネントの機能は以下のとおりです。

(1) YPS/COBOLコンパイラ

・仕様書とプログラムが一体化したYPS仕様書からCOBOL原始プログラムを自動生成できます。

・GS/Mシリーズと統一されたYPS言語仕様をサポートしています。

・YPS言語が持つ機能には、条件付き翻訳/日本語名標宣言/構文定義/取込み/全角文字記述/コメントキーワード定義/段階的詳細化があります。

(2) YPS/COBOLブラウザ

・エラーメッセージからエラー箇所への位置付けができます。

・YPS仕様書とCOBOL原始プログラムを対比して表示できます。

(3) YPS/COBOLデバッガ

・YPS仕様書ビューで会話的にデバッグできます。

・利用書の操作とその結果をファイルに記録できます。

・デバッグの処理手順を予めファイルに設定しておくことにより、デバッグ処理がバッチ化できます。

・YPS/COBOLデバッガの機能には、実行制御/データ表示・変更・監視/自動デバッグ/中断点設定/仕様書表示・検索/通過回数計測があります。

(4) YPS/COBOLカバレッジブラウザ

YPS言語で記述された利用者プログラムの実行した経路、実行回数、各プログラムの網羅率を表示・印刷できます。

4. 適用業務

YPS/COBOLの適用分野は、事務処理(基幹業務システム)分野です。

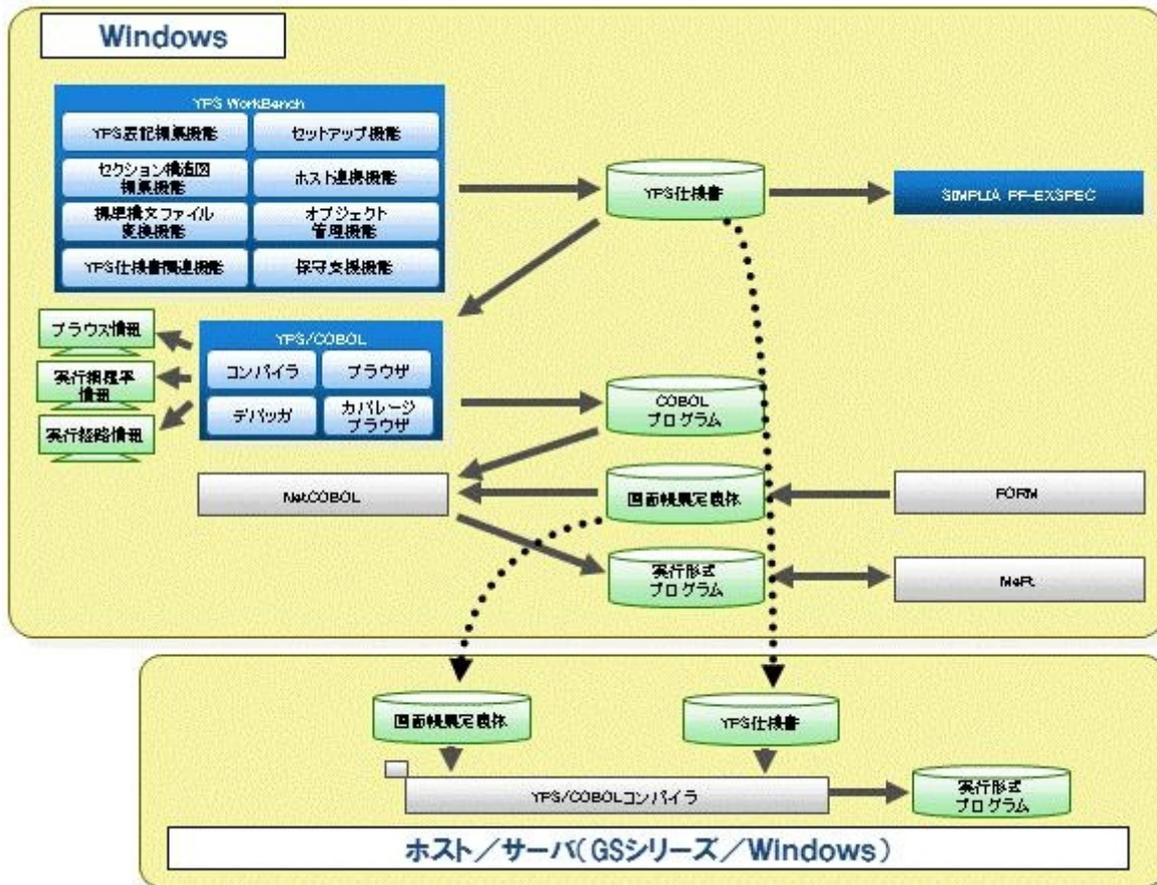
COBOLを使用した従来の開発方法に比べて、プログラムの品質や保守性が向上します。

PCおよびホスト/サーバ(GS/Mシリーズ、Windowsサーバ)上で動作するアプリケーションを、Windows上で開発する場合に使用するソフトウェアです。

(1) プログラムロジックの構造や処理内容が分かりやすくなり、レビュー品質や保守性が向上します。

(2) 仕様書とプログラムが一体化して、保守対象がYPS仕様書だけとなります。

PCおよびホスト/サーバ(GS/Mシリーズ、Windowsサーバ)上で動作するアプリケーションを、Windows上で開発する場合に使用するソフトウェアです。



新規機能

V5.1 L20からV5.1a L20の機能強化項目は、以下のとおりです。

1. 内部コンポーネントの入替え

内部コンポーネントを入れ替えました。

2. NetCOBOL V12aに対応

YPS WorkBenchのオブジェクト管理機能にて、以下のNetCOBOLに対応しました。

- ・ NetCOBOLシリーズ 開発パッケージ (32bit) V12a

・ オンラインマニュアル

- ・ YPS WorkBench V5.1 使用手引書(PDFファイル)
- ・ YPS/COBOL V5.1 使用手引書(PDFファイル)
- ・ YPS/COBOL 言語文法書 2017年8月版(PDFファイル)
- ・ YPS V5.1 リリース情報(PDFファイル)
- ・ SIMPLIA PF-EXSPEC オンラインマニュアル(HTML形式)

商品体系

- YPS/COBOL Std メディアパック V5.1a L20
- YPS/COBOL Std 1ライセンス (1年間24時間サポート付) V5.1a (*)
- YPS/COBOL Std 1ライセンス バージョンアップキット V5.1a

*: 本商品のライセンス製品には、初年度の「SupportDesk Standard」がバンドルされています。

1. メディアパックについて

メディアパックは、媒体（CD-ROM等）のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。また、商品の導入にあたり、最低1本のメディアパックが必要です。バージョンアップ/レベルアップを目的に本メディアパックのみを手配することはできません。

2. ライセンスについて

本商品は、コンピュータ1台毎に1ライセンスを購入してください。複数台のコンピュータに適用する場合は、その台数に応じたライセンス数の購入が必要です。

3. V5.0以前からのバージョンアップについて

(1) 下表に示す商品を購入することで、V5.0以前のバージョンからのバージョンアップが可能です。

(2) バージョンアップを行うにあたり、YPS/COBOL Std メディアパック V5.1a L20をライセンスの購入に合わせ、最低一本は購入してください。

本商品へのバージョンアップ方法

バージョンアップ対象商品	バージョンアップ時に購入する商品	購入可能数
YPS/COBOL 開発セット V2.1	YPS/COBOL Std 1ライセンス バージョンアップキット V5.1a	対象商品保有ライセンス数分、購入が可能です。
YPS/COBOL セット V2.1/V2.2		
YPS/COBOL セット ライセンスパック V2.1/V2.2		
YPS/COBOL Std V4.1		
YPS/COBOL Std ライセンスパック V4.1		
YPS/COBOL Std V5.0		
YPS/COBOL Std ライセンスパック V5.0		
YPS/COBOL Std バージョンアップキット V5.0		
YPS/COBOL Std ライセンスパック バージョンアップキット V5.0		

1. YPS WorkBench機能の関連ソフト

1. JEF拡張漢字を使用する場合

JEF拡張漢字を使用する場合は、以下の商品が必要です。

- ・ JEF拡張漢字サポート V7.2 L10以降

2. ホスト連携機能を使用する場合

ホスト連携機能を使用する場合は、以下の商品が必要です。

- ・ 通信制御サービス V7.1 L25以降
- ・ WSMGR V7.1 L30以降
- ・ WSMGR APIオプション V7.1 L20以降

2. YPS/COBOL機能の関連ソフト

COBOL開発環境を構築する場合は、以下の製品が必要です。

- ・ NetCOBOL シリーズ 開発パッケージ V10.5.0以降
- ・ MeFt V10.0.0以降
- ・ FORM V10.0.0以降

なし

1. Windows サーバOS (64-bit)上での動作

本商品は、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

- ・ Windows Server 2008 R2(64-bit)
- ・ Windows Server 2012(64-bit)
- ・ Windows Server 2012 R2(64-bit)
- ・ Windows Server 2016(64-bit)
- ・ Windows Server 2019(64-bit)
- ・ Windows Server 2022(64-bit)

注：Windows 32-bit On Windows 64-bit

2. Windows デスクトップOS (64-bit)上での動作

本商品は、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

- ・ Windows 7(64-bit)
- ・ Windows 8.1(64-bit)
- ・ Windows 10(64-bit)

注：Windows 32-bit On Windows 64-bit

3. YPS WorkBench機能の留意事項について

1. YPS WorkBench for Windows V2.1/V2.2 との互換性について

(1) YPS WorkBench機能はWindows標準の操作性に基づいているため、YPS WorkBench for Windows V2.1およびYPS WorkBench for Windows V2.2(「旧仕様との互換」の操作モード)でサポートしていた以下の操作性は、サポートしていません。

- ・ 機能を選択してから開始位置・終了位置を指定
先に範囲を指定してから機能を選択する操作性に変更しました。
- ・ マウスの左クリックでポップアップメニュー(編集機能メニュー)を表示
マウスの右クリックでポップアップメニューを表示する操作性に変更しました。

(2) YPS WorkBench for Windows V2.2 の画面分割機能は、編集集中のYPS仕様書に対してさらに参照モードで画面を開く方法でサポートしていましたが、編集集中のYPS仕様書の画面を上下に分割する方法に変更しています。

2. YPS WorkBench V4.1/V5.0 との互換性について

YPS WorkBench V4.1/V5.0 との非互換はありません。

YPS WorkBench V4.1/V5.0 で作成した資産は、そのまま利用できます。

3. サポート終了機能について

以下の機能については、連携製品のサポート終了に伴い、利用できなくなりました。

- ・ キャビネット連携
- ・ 項目辞書連携

4. YPS/COBOL機能の留意事項について

(1) 対応するCOBOLコンパイラについて

YPS/COBOL機能に対応しているCOBOLシステムには、NetCOBOL、 COBOL G および Micro Focus COBOL の3つがあります。

これらのシステムのうち、COBOL G および Micro Forcus COBOL は、COBOL原始プログラムの生成だけをサポートしています。

このため、YPS/COBOL機能のすべてのコンポーネント(コンパイラ、ブラウザ、デバッガおよびカバレッジブラウザ)を利用したい場合は、関連ソフトに記載のNetCOBOLシリーズ 開発パッケージが必要です。

(2) YPS/COBOL for Windows V2.1/V2.2からの移行について

YPS/COBOL for Windows V2.1/V2.2から本商品に移行する場合、以下の点にご注意ください。

本商品に含まれるYPS/COBOLデバッガでは、16ビットアプリケーションのデバッグはできません。このため、利用者プログラムは、YPS仕様書の再翻訳および再リンクを行い、32ビットアプリケーションとして作成し直してください。

お客様向けURL

- **FUJITSU Software (ソフトウェアの一覧表 (システム構成図) と各種対応状況)**
価格/型名の一覧 (システム構成図) を提供しております。
<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/configuration/>
- **FUJITSU Software (ライセンス)**
「ライセンスについて、くわしく知る」の項で富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポート期間などの情報を提供しております。
<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/>
- **FUJITSU Software (SIMPLIAについて)**
SIMPLIAの詳細情報を掲載しています。
<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/infrastructure/dynamic-infrastructure/sdas/products/simplia/>